

## テモテへの手紙第一2章5節 「仲介者イエス」

### 1A 唯一の神

1B すべての人の神

2B 神に似せて造られた人

### 2A 仲介者

1B 神と人にある溝

1C 創造者と被造物

2C 聖なる方と汚れた者

2B 人間の徒労

1C バベルの塔

2C 天のはしご

### 3A 唯一の仲介

1B イエスの宣言

1C 狭い門

2C すべてに開かれた門

2B 十字架につけられたキリスト

1C 義人のいない世界

2C 御子の身代わり

## 本文

テモテへの手紙第一 2 章を開いてください。私たちの聖書通読の学び、2 章に入ります。午後に一節ずつ見ていきますが、今朝は 5 節を中心に見て行きたいです。「I テモ 2:5 **神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。**」

### 1A 唯一の神

1B すべての人の神

テモテ第一 2 章は、とても特徴のある中身になっています。1 節で、いきなり、王たちと高い地位にある人たちのために祈りなさいと勧めています。どうして、関係のない人のために祈らないといけないのか？自分から遠く離れているような存在のために祈らないといけないのか？そして、政治的に意識が強い人であれば、どうして、あんな悪い政治をやっている人のために祈るのか？と思うはず。完全な正しい政治をしている人なんて、まずいませんから。

そして、当時はローマ帝国が支配しています。皇帝はネロです。彼は、初めは善政をしていたと言われますが、人格が変わったように変化し、悪霊つきとまで言われました。気が狂ったようなこ

とをし始めました。ローマに大火事が起こりました。それをキリスト者のせいにして、ローマの町の夜に照明をとすために、街灯のためにキリスト者を柱に括りつけて、火で燃やして、それで明かりをとしていました。競技場であるコロッセウムでは、ライオンが解き放たれ、生きたままキリスト者が投げ込まれ、喰い殺されるのを楽しんでみていたのです。そして、パウロ自身も、後に皇帝ネロによって死刑に処せられることとなります。

しかし、パウロは、祈れと命じているのです。実は、王たちのために祈れという前に、「すべての人のために」と書いているところが味噌です。祈るのに、もっとも離れていると思われる人を、まず祈りなさいというものです。特に、社会全体に秩序があり、平安で落ち着いた生活をするには、為政者が良い統治をしていなければいけません。だから祈るのです。パウロが、すべての人のために祈るように命じているのは、4 節に答えがあります。「神は、すべての人が救われて、真理を知ることを望んでおられます。」これが、神の心です。すべての人が救われて、真理を知ること望んでおられるので、すべての人のために祈りなさいということです。

かつて、米国には「大統領たちの牧師」と呼ばれていた人がいました。伝道者ビリー・グラハムです。彼は 2018 年に天に召されましたが、なんと日本が終戦した時の、トルーマン大統領の時から、大統領と友好を深めていました。大統領のために祈り、助言を与え、またみことばを語りました。トルーマン大統領、アイゼンハウワー大統領、ケネディー大統領、ジョンソン大統領、ニクソン大統領、フォード大統領、カーター大統領、レーガン大統領、ブッシュ大統領、クリントン大統領、そして、ブッシュ Jr. 大統領、それからオバマ大統領、最後はトランプ大統領です。<sup>1</sup>彼の葬儀の時に、トランプ大統領が参席していました。そこには、共和党、民主党どちらの大統領もいます。自分の政治信条に全く合わない人もいたことでしょう。犯罪を犯してしまった人もいます。しかし、彼が堅く信じていたことがあります。パウロが宣べ伝えていた福音です。すべての人のために祈り、すべての人が救われて、真理を知ること望んでおられる神の福音です。

真理と言っていますが、真理というのは、一見、排他的です。これが真理であると言え、他のすべては偽りになるからです。しかし同時に、真理というのはすべての人を包み込みます。なぜなら、すべての人に当てはまるからこそ真理なのです。真理の中にある恵みが、すべての人に及んでいます。酸素がなければ、人は生きていけないというのは真理ですね。何と排他的なことでしょうか！（笑）けれども、酸素は空気の中に存在し、すべての人々に遍く行き渡っているのです。

パウロは、ユダヤ人たちが、ユダヤ人たちだけに神は救いを与えると信じられている中で、自分は、信仰によって異邦人も救われるのだという福音を語っていました。それが、真理であると、エルサレムにいたペテロもヤコブも、聖霊によって同意しており、それが福音の真理です。けれども、教会の中において、異邦人は割礼を受けて、律法を守り行い、ユダヤ教徒になって初めて救われ

---

<sup>1</sup> <https://billygraham.org/gallery/billy-graham-pastor-to-the-presidents/>

るのだと教えていた者たちがいました。

そこで、ユダヤ人たちが、自分たちだけが救われると考えているのは、自分たちが神が唯一だと考えているのに矛盾していることを、指摘しています。ロマ書 3 章 29-30 節です、「それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのではないのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。」ユダヤ人の神がいて、異邦人の神々がいるように聞こえます。唯一の神であれば、異邦人も救う神でなければおかしいです。

これで、お分かりにならないでしょうか？多くの人々が、「基督教の神だけが唯一というのは、ものすごく排他的だ。しかし、日本には多くの神々がいる。」とするのが、果たして寛容な発言なのか？ということです。いいえ、その反対です。ユダヤ教や基督教を背景にしている国だけが救われると考えることのほうが、よっぽど残酷です。神が唯一というのは、異教を背景にしている日本、また基督教の反対しているような国々の人々をも、すべての人を救いたいと願われている神なのです。神が唯一だからこそ、それほどの大きな寛容と恵みを示すことができます。

日本から離れたら、「基督教は西洋のものなのだ」という考えが一気に吹き飛びます。今は、プロテスタントの信者の数においては、圧倒的に多数なのがアフリカ大陸です。アジアも多いし、中南米も多いです。北米や欧州も多いですが、非西洋圏の基督教者のほうが多くなっているのです。動画で、同じ讃美歌を、例えば、アメージング・グレースを世界の人々がそれぞれの言語で、それぞれの民族衣装で歌っているものを見つけることができます。すべての人を救いたいと願われている唯一の神なのです。

## 2B 神に似せて造られた人

神のことを考える時に、特定の宗教の神だと考えてはいけません。少なくとも聖書の神はそうです。だれにとっても明らかなのが神です。「神は仰せられた。『さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。』(創世 1:26)」人は、神のかたちとして、動物にはない特徴と能力を持っています。かつて、白色人種は有色人種よりも優れているという疑似科学が流行っていました。その人種主義によって、ナチスはユダヤ人を虐殺していきました。それが、いかに滑稽な理論であるかは、科学が証明しています。皮膚のメラニン色素の量が違うだけで、人間としては全く変わらないのです。神は、すべての人を造られて、すべての人に慈悲深い方です。

その恵みを、イエス様は次のように説明しておられます。「マタ 5:45b 父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。」ご自分の父である神は、太陽を悪者のためにも昇らせておられます。雨を正しくない者にも降らせておられます。悪者にだけ、太陽を隠そうと思えば神はできるのです。雨を降らせないようにしようと思えばで

きるのです。かつて、裁きとして、エジプトを三日間、暗闇にしました。また、北イスラエルのアハブ王が罪を犯していたので、3年間の飢饉が来るようにされました。太陽も雨も、神の支配の中に入っているのです。それでも、神は基本、悪者にも同じ恩恵を与えておられます。

神はこのように、すべての人をこよなく愛し、すべての人が罪を悔い改め、ご自身に立ち返ってほしいと願われています。

## **2A 仲介者**

そこで、「**神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。**」とあります。神が唯一で、すべての人を救いたいと願われているだけでなく、神と人をつなぐ仲介者も唯一であり、キリスト・イエスだということです。

### 1B 神と人にある溝

#### 1C 創造者と被造物

神と人との間には、大きな隔たりがあります。全知全能で、天地を創造した神と、毎日の生活をしていて、その有限を心底、身に沁みて知っている自分には、大きな隔たりがあると感じます。そのことを、嫌になるほど実感した人物が、聖書に出てきます。ヨブです。彼は、神を畏れ敬って生きていました。ところが、災難が次々と起こります。それで、自分はこのような災いを受けるような悪いことは何もしていないと、神に訴えます。けれども、返事がありません。それで、彼は神に対して、嘆くのです。「ヨブ 9:33 私たち二人の上に手を置く仲裁者が、私たちの間にはいません。」神と同じ法廷に立ちたいと思っても、その二人に手を置く仲裁者がいないと言っているのです。

#### 2C 聖なる方と汚れた者

人は、何か悪いことが起こると、「自分が何か悪いことをして、それで災いが襲っているのではないか？」とってしまいます。人はだれでも、やましいことが何もない人はいないので、何か悪いことが起これば、自分が罪を犯したか、何かの報いなのではないか？とってしまうのです。

エリヤという預言者が、シドンにいる女のところに来ました。彼女はやもめ、夫に先立たられた人で、男の子がいました。非常に貧しくなっていて、パンのための粉と油が一食分しかなく、これを食べて二人とも死のうとしていました。しかし、エリヤがここに神から遣わされていました。エリヤは、それでパンを自分に作ってくださいと言いました。なぜなら、神が、女がそのようにすれば、かめの中にある粉も、壺にある油も尽きることはないと言っていたからです。女がそのとおりにしたら、果たしてその通りになりました。

ところが、その息子が病気になって死んでしまったのです。死のうと思って生かされておきながら、このように死んでしまったのなら、もともと初めに死なせておいてほしかったと願うのでしょうか。

母はそこで、エリヤにこう泣き叫びました。「Ⅰ列王 17:18 神の人よ。あなたはいったい私に何をしようとするのですか。あなたは私の咎を思い起こさせ、私の息子を死なせるために来られたのですか。」彼女は、過去に犯した罪を思い出していました。このように、人は、悪いことが起こると、何か自分が悪いことをしたから、と誤ってしまいます。

聖書に従えば、決してそんなことはありません。悪いことが起こる時に、必ずしも自分の犯している罪や悪いことのために起こっているわけではありません。けれども、はっきりしていることがあります。神が初めに造られた人、アダムが、神に対して罪を犯したので、その子孫である我々すべてが、その罪の影響を受けているということです。人が病にかかったり、事故が襲ってくるのは、その人の罪のせいではないのですが、アダムによって罪の影響が入って来た世界に生きているために、起こっていることです。

このように、人は、全知全能の神、主権者であり、天地を創造した神に対して、大きな隔たりを抱きます。創造者と被造物という圧倒的な違いもありますし、聖なる方と、罪の影響を受けている汚れた者という違いもあります。この罪の汚れをどのように清められるのか？ということは、大きな課題となっているのです。

## 2B 人間の徒勞

それで世界では、宗教が生まれました。仏教であれば、私たちには煩悩があり、修行によって、煩悩から解脱することによって涅槃に入ると教えていました。それで、祈り、お布施をし、供養をしたりするのです。そして、イスラム教があります。今、世界で非常に増え広がっていて、日本人でムスリムになる人たちも増えています。イスラム教は、ユダヤ教とキリスト教の後にできた宗教ですが、神アッラーに服従することでムスリムになることができ、善行を積むことによって天国に入ると教えます。善行と悪行を天秤にかけられ、それによって神からの報いが決まります。

## 1C バベルの塔

しかし、有限の人間が、無限の神に自分たちの努力で到達できるのでしょうか？先ほどヨブが訴えた、二人の間にある距離、隔たりは埋められるのでしょうか？どんなに善行を積んだ人にも、やはり災いは襲います。それは埋められない溝です。そのために、あらゆる努力をします。最古の宗教は、メソポタミア地方がその一つですが、聖書には、バベルの塔と呼ばれる事件が起こりました。町を建て、それから塔を建て始めました。それは天に届こうとしていた塔です。こう書いてあります。「創世 11:4a さあ、われわれは自分たちのために、町と、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。」

彼らは天に届いていると思っていました。ところが、主なる神は、「11:5 人間が建てた町と塔を見るために降りて来られた。」とあります。人間がいつも、傲慢になっていますね。私たちは神の領域に達したというばかりの勢いです。AI の技術で超人間になるという話でもちきりです。しかし、神は

全く到達してないどころか、神にとってはあまりにも小さく、無に等しいのを憐れんでおられます。神は、塔を見るために天から降りてこなければいけなかったのです。

## 2C 天のはしご

所詮、人間は有限な存在です。神は無限であります。有限が無限に到達することはできません。では、その逆はどうでしょうか？無限が有限に近づくことができます。そのことを語られたのは、イエス様です。「ヨハ 3:13 だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。」宗教は、地にいる者が天に上るような行為です。無理です。けれども、天から下って来ることはできます。それが、「人の子」と呼んでおられますが、これがまさしく、キリストです。

## 3A 唯一の仲介

キリストは、神であられるのに人となられた方です。「ヨハ 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」ことばは、神であるとヨハネは言っており、神が肉体を取られて、人々の間に住んでくださったのです。神でありながら、同時に人でもあります。神であって、少し人のように見せているのではありません。完全に人です。神がかった人でもありません。完全に神です。神であるのに、人となられたのです。ですから、先のヨブの訴えを、神は聞いてくださったのです。「私たち二人の上に手を置く仲裁者」を遣わしてくださいました。

## 1B イエスの宣言

### 1C 狭い門

そのイエス様が、言われました。「ヨハ 14:6 わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」イエスの御名以外には、神のところにはいけない、ということです。仲介者は一人だけだ、ということです。非常に狭い、救いの道ですね。主は、このことを認めておられます。「マタ 7:14 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入っていく者が多いのです。いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。」

### 2C すべてに開かれた門

神が唯一だというのが、排他的に聞こえても、実はすべての人を救いたい方であり、すべての人に同じように、神を必要するという意味では、これほど寛容な、包括する真理はありません。同じように、イエスが唯一の仲介者ということも、排他的に聞こえても、実は、この方こそが、あなたに寄り添うことのできる方であることを教えています。他の仲介的な働きをしていると言われる存在が、では、あなたの罪や弱さを受け持ってくれるのか？というと、そうではありません。正しい道は教えても、その道を歩む力はくれません。イエスは道を教えるだけでなく、道になっておられます。この方を受け入れることは、そのまま道の中に生きることになり、この方によって神を事実、知ることのできる方なのです。そして、だれに対しても仲介をしてくださり、どんな人も拒むことのない、限り

なく寛容な仲介者なのです。

「ヘブル 4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。」主は、神であるのに、人となりました。神だからこそ、すべての人の、すべてのことを知っておられます。そして人だからこそ、その弱さを知っています。つまり、どんな人であっても、その人の持っている心の悩み、そこにある傷、すべてを知っていて、それを人として同情することができるのです。だから、こんな私でも、主を信じました。この方こそが、唯一の私の仲介者だと知りました。ここに、排他性があるでしょうか？確かにあります。それは、他のだれも、私の仲介者になりえなかったからです。私の親も、その悩みは分かりませんでした。私の友人もそうですし、尊敬する人も、偉大な人も解決できません。イエスこそが、すべての悩みを知ってくださいました。

## 2B 十字架につけられたキリスト

イエスが、唯一の仲介者だというのに、そんなに抵抗をしなればいけないのは、なぜでしょうか？恋人が、「この人が唯一の大事な人なの」と言ったら、そりゃあ排他的でしょう、でも偏狭なんでしょうか？いいえ、それだけ愛が熱いからです。

主は、人にはない愛を示されました。6 節、「キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身を与えてくださいました。」贖いとは、買い戻すことです。元々、自分の所有としているものが、売り渡されました。それを、代価を払って買い戻すのです。神のものになっていたのに、すべての人は罪に売り渡されました。その対価を払われたのが、キリストです。ご自身のいのちという代価です。つまり、この方は私が、神のものとなるために、身代わりになって死んでくださったのです。

## 1C 義人のいない世界

誰かが私のために死んだとしても、神と一つになることなどしてくれません。自分に全き平安、言葉に尽くすことのできない喜び、わきあがるいのちなど、くれることはできません。なぜなら、自分のうちには、そのような泉がないからです。いのちをもたらす泉のような、湧きあがらせるものがないからです。人は、みな罪を犯したので、神の基準に達することができないのです。

## 2C 御子の身代わり

それで、私の負い目を、私が罪を犯したことについての負い目を、人となられたイエス様が、その肉体をもって十字架につけられました。その肉体は裂かれて、その体から血がほとばしり出しました。神であられる方が、その肉体を取られて、その肉体は、わたしの身代わりになってくださったのです。こんなにすごいことはあるでしょうか！こんな仲介をしてくださる方はいるでしょうか？天下にいません。だから、この方は唯一の仲介者なのです。唯一の救い主である神、そして唯一の仲介者、キリスト・イエスです。